

総務常任委員会

(令和 6 年 5 月 1 6 日)

総務常任委員会

午前10時58分 開会

○中村英仁委員長 ただいまから、総務常任委員会を開会します。

本日の会議は、タブレット端末に掲載した日程により進めてまいります。

それでは、「2. 協議事項（1）防災をテーマとした政策提言について」のうち、「ア. 所管事務調査の振り返りについて」を議題とします。

5月8日から、10日までの3日間において所管事務調査を実施させていただいたところですが、皆様の御協力により、実りのある内容になったと考えております。改めてお礼を申し上げます。

所管事務調査で得た知見につきましては、皆様に作成していただく所感を集約させていただき、正・副委員長において、まとめたいと思いますが、現時点で、視察後の結果を踏まえ、参考とすべき点や本市で生かせる点などを整理し、今後の取組につなげていければと考えております。

視察を振り返り、各委員の皆様から御意見を頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。

八尋伸二委員。

○八尋伸二委員 今回の防災をテーマにした政策提言に結び付けるための所管事務調査で、3日間とも、非常にいい内容だったというふうに思います。私が、いろいろ過去に行った所管事務調査の中でも、特にいい内容だったというふうに思っています。

また、1日目は、防災という形ではありませんでしたが、やはり業務改革をしていく中でDXと言うのは、必要であります。そのことを活用した防災というのも、今後、検討できるような形で、そして、本市においても秦野市総合防災情報システムがありますが、それをどういうふうに普及していくか、そういったものにも、少し参考になったのではないかなというふうに思います。

2日目のインクルーシブ防災は、スーパー行政職員に講義いただきましたが、同行したくらし安心部長も言われていましたが、今、秦野でもできる部分があるのではないかなということで、今後、講師として呼びしてもいいのかなということでありました。

そして、3日目の大分市強靱化アクションプラン2023につきましても、毎年80ぐらいの事業について、振り返りをしながら、レビューアップしているという中で、取組も、かなり細かくやっているなという印象を受けました。

ただ、北九州市や大分市については、規模的にも大きいのですが、何かを取り入れられるかっていうことをしっかりと議論しながら、今後、進めていくような形がいいのかなというふうにも、私は、少し感じました。一つ目のDXにつきましても、振り返りをする事など、必要なのではないかなというふうに思いましたし、実際、インクルー

シブ防災についても、秦野市では、どういうふうなところからスタートすればいいのか、あまり高いハードルにしないでやっていく方法とか、そういったのも行政とも連携しながらやっていけばいいのかなというふうに思う実りある視察でした。

○中村英仁委員長 古木勝久委員。

○古木勝久委員 正・副委員長、ありがとうございます。また、事務局も一緒に大変だったと思いますけれども、私は、自治体の大小に、関係ないと思っていますが、つつい比較をしてしまうんですけど、方法論は学べたのかなと。私は、今、レポートをまとめていて感じたのは、やはり秦野市国土強靱化地域計画が、私自身ちょっとあまり頭の中に入っていないくて、今回、非常に違いがよく分かったなっていうのが実情です。

そういう意味では、今回、別府市のインクルーシブ防災も、それから、大分市の防災の取組は、ハード面で、それが各部署に目標値を設けて、PDCAサイクルが生かされていて、比較をさっき冒頭、申し上げましたけれども、秦野市は、どうなんだったっていうところでやはり比較せざるを得ない方法論は、やはり学ぶべきところが、非常にあったというそういう印象はありました。

最初の北九州市のDXは、私、今回、防災に生かすというような話がありましたけど、もっと壮大なテーマであって、今回、政策提言には、ちょっと2次的な話なのかなって、思いました。非常に、これは、北九州市も、まだ始まったばかりで、これから準備して、これから、より強固にしていく染入のような内容でした。

以上です。

○中村英仁委員長 原聡委員。

○原聡委員 非常に気付きが多い視察だったなと思っています。

特に、別府市に関して、秦野市では、あそこまでの観光資源が、ありません。逆に、避難行動要支援者の方々の内容というか振り分けのところで、秦野市に当てはめれば、外国人の方も少しいますが、その内容は、観光客ではなく、労働や学校に来ている。留学生の比率とかも増えてくるので、そういったところもいろいろケースを当てはめて、いろいろと障害のある方、いわゆる要配慮の必要な方とかというところの防災観点からもためになったのかなと思います。

あと、大分市に関しては、そのまちによって、災害の内容も変わってきますし、地域の強靱化計画もそうなんですけれども、そこに住む方々の人口分布であったり、人口密度であったり、災害の内容であったりというところもですね、秦野ならではの防災が改めて必要になってくるのかなと感じました。

以上です。

○中村英仁委員長 大塚毅委員。

○大塚毅委員 自分のやっていることと照らし合わせて、考えさせていただくと私は、自治会の自主防災協議会の防災担当になっているので、別府市のインクルーシブ防災の

件で質問もしましたが、今、要支援者の方の情報提供というのが、自治会長で、ストップしていて、担当者に来ない状況があります。

そのことを元々この視察に行く前に、会長にちょっと確認したところ、数か月前に確認したとき、やはりその扱い方が分からないということを自治会の現状ということを確認していたので、まず、別府市にお伺いして、感じたのは、その情報を共有すること、自治会の自主防災会の中でも、自分のいる自治会だけではなくて、全体的にそういうところを始めないといけないのかなと思ったりもしています。また、思ったのは、要支援者の配慮も必要なんですけど、そのことを考えることによって、多分、要支援者ではなく、言い方が正しいか分かりませんが、健常者と言っていいか分かりませんが、その方々の防災の支援というか体制っていうのも再確認でき、一番配慮しなくちゃいけないところを確認することによって、一般の健常者の方に対して、その防災っていうところもケアできてくるのかなっていうふうに考えたところが勉強になったと感じています。

以上です。

○中村英仁委員長 今井実委員。

○今井実委員 確かに勉強にはなりました。

3市が、それぞれしっかり取り組んでいていいなと思うんだけど、特に防災で言うと、私は、どちらかというと現場主義なもので、仕組み作りだとか、計画というのは大変いいし、あるべきだということは確かに必要なと思います。それがいかに実際は、どういうふうに機能するのかなっていうことは、常に頭のどこかに疑問があります。最終的には、いざ実際にことが起きたとき、職員も避難したり、活動されるわけですから、そこにそういうものを下ろしていくかっていうその作業が、大変重要になっているのかなということが、ちょっと一つ頭にあって、今、鶴巻地区の自治連会長も、おっしゃっていましたが、自治会活動が大変だということも現実としてある中で、そういう計画を立てつつ、実際のそういう差異があったときに、より一層機能するには、どうしたらいいかという、その辺に少し私としては、視点を置きながら、やっていきたいなとはちょっと思っています。

ただ、仕組み作りは、大変きめ細かくやっておられて、それはそれで素晴らしいなと。まずDXのほうは、確かにこれも時代で、もうそうになっていくのは当たり前のことで、ますますロボットの時代にもなっていったらいいのかなと思うんですけど、私が心配するのはそこで人間として携わる我々とその辺のDXのバランスをどうやっていくことが、いいのかなとちょっと思ったりもしています。

以上です。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 ちょっとレポート書く上で、一つ確認していいですか。

村野さんでしたっけ。あの方はスーパー行政職員ではなく、専門員ですね。確か、肩書きを調べたら、防災何とか専門って書いてあった気がします。

レジメには、企画戦略部政策企画課って書いてありますよね。

○中村英仁委員長 議会局書記。

○議会局書記 インターネットを見ると、防災推進専門員と記載されていますが、企画戦略部政策企画課の職員であると思います。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 純粹に行政職員ではない気がします。そこを確認させていただきたかったんで、分かりました。

○中村英仁委員長 相原學委員からも、御意見伺いたいのですがいかがでしょうか。

相原學委員。

○相原學委員 特にありません。

○中村英仁委員長 小山田良弘委員。

○小山田良弘委員 皆さんの意見に、共通していたのは、すごくいい内容で、実り多い視察だったということで、これまでに、得られなかった何かすごいものを感じて帰ってこれたのかなというふうに思いました。

特に、私も元行政の仕事をしていましたので、感じたことは、北九州市のDXも、別府市のインクルーシブ防災も、大分市の強靱化アクションプラン2023も、それぞれがその担当の部局だけでやっているんじゃなくて、全て全庁的にやっている。そこが一番すごいというふうに感じましたので、例えば、インクルーシブ防災も、もともと村野さんは、県社協にいてそれで防災の担当職員として関わっていたんだけど、防災分野だけだと限りがある。

それで、今、企画戦略部政策企画課に行って全庁的に取り組んでいることが、まさしくそうだと思うんです。

秦野市でもそういったところを見習って、例えば、組織的に、総合政策課が、これから、総合計画の後期基本計画を作ったり、いろいろ大変なんでしょうけども、その一つの部署セクションとして必要かどうか分からないんですが、その防災を全体として見るという視点も大事なのかなというふうには感じました。まだ、いっぱいありますけども、いろんなところを吸収しながら、政策提言につなげていけたらいいなと思いました。

以上です。

○中村英仁委員長 ありがとうございます。本当に皆様の御協力により大変いい所管事務調査ができたと思っておりますし、皆様の御意見、感想をお伺いして、改めて行ってよかったと思いました。

では、本日の御意見を踏まえて、正・副委員長において、視察の報告書を取りまとめ、今後の取組に向けた参考としたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 それでは、そのように決定いたします。

なお、皆様からの所管レポートにつきましては、提言につながるような意見を入れて、ここがポイントですが、提言につながるような御意見を入れていただいて、5月中に、御提出いただければと思います。よろしくお願いいたします。

次に、「イ．今後の協議の進め方について」を議題といたします。

資料1について議会局から説明をお願いいたします。

議会局書記。

○議会局書記 それでは、資料1について御説明させていただきます。

資料1は、政策提言のスケジュール案となります。

まず、1段目の常任委員会の欄を御覧ください。常任委員会の開催は、原則、議会議月を除いて、毎月開催し、政策提言に向けて御協議していただく形となります。

次に、2段目の所管事務調査につきましては、先週の5月8日から10日までの3日間で実施させていただきましたので、こちらは終了しております。

次に、3段目の議会報告会につきましては、今後、調査研究を進めていくに当たり、必要に応じて、関係団体との意見交換を実施することができます。

意見交換を行う場合は、7月から9月までの間に、意見交換先の選定と調整を行い、11月頃には、意見交換を行っていただくと、政策提言に反映できるのではないかと考えております。

参考までにお伝えいたしますと、令和4年に総務常任委員会の政策提言に関して、意見交換を行った相手先は、防災アドバイザーと学生団体E4でした。

次に、4段目の調査研究につきましても、参考までに例を記載させていただきました。

最後に、5段目の議会全員協議会につきましては、各常任委員会で提言書が作成できましたら、議会全員協議会の場において、各常任委員会の正・副委員長から提言内容について発表いただき、全議員で確認後、市長へ政策提言をさせていただく形になります。

今後の協議のスケジュール（案）については、以上となります。

○中村英仁委員長 ただいま議会局書記より説明がありましたが、まず、3段目の議会報告会につきましては、関係団体との意見交換の場となります。政策提言の内容を市民等の意見も踏まえたものとするために、実施したほうがよいと考えますが、実施するという方向性でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 それでは、そのように決定いたします。

古木委員。

○古木勝久委員 ちょっといいですか。

関係団体っていうのは、そうするとこれから議論するのでしょうか。

○中村英仁委員長 八尋委員。

○八尋伸二委員 スケジュールにこれから調整って書いてあります。

○中村英仁委員長 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 次に、「３．その他」、委員の皆様から、何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 では、議会局から何かございますか。

議会局書記。

○議会局書記 それでは、政策提言に関する次回の常任委員会の開催につきまして、御連絡いたします。

今回は、７月16日・火曜日に議会運営委員会終了後、開催を予定していただければと思います。

以上です。

○中村英仁委員長 ただいま議会局書記より連絡がありましたが、次回の開催ですが、本日、御協議いただいた内容やレポートをいただいた意見をまとめ、政策提言に向けた話し合いをしていきたいと考えております。一応、今回いただいた政策提言スケジュールの案をベースとしながら、この中身を考え鑑みた上で７月、８月には協議をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは以上で、総務常任委員会を閉会いたします。

午前１１時１８分 閉会